

Title	効率的ポートフォリオ運用のためのアルファ値の再検討
Sub Title	
Author	大花朋広(Oohana, Tomohiro) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第823号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0823

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	大花 朋広	主査	太田 康信
		副査	関谷 章
			姉川 知史
			斎藤 進
所属	太田 康信 研究室		

効率的ポートフォリオ運用のためのアルファ値の再検討

現代ポートフォリオ理論の考え方が機関投資家を中心に受け入れられるようになり、投資リスクを軽減しつつ、高いパフォーマンスを実現できる対象に投資することが要求されるようになってきた。このため理論的に最善であると考えられるインデックス・ファンドが隆盛を極めたが、市場の低迷もあり、日経平均やTOPIX以上の成績を上げるように積極的な運用をしていこうという動きが強まっている。その方法の一つとして、市場の規則性に注目することで高いパフォーマンスを得るといったことが挙げられる。

本研究においては、ポートフォリオを組む際に尺度の一つとして一般的に使われる、ベータ値を算出する際同時に求まるアルファ値に着目した。アルファ値には、市場とは無関係な要因によるリスクを負担したことに伴う報酬が高い収益率として含まれているので、このアルファ値に着目して投資を行えば、低リスクで高収益率が可能になると考える。本論文では、市場モデルによりアルファ値の算出を行い、小規模なポートフォリオを用いてアルファ値にティルトしたポートフォリオの運用の有効性を考える。その後、モデルの構造上合わせて考える必要があるベータ値について、その影響を排除する方法を考え、その上でアルファ値に基づいてランク分けしたポートフォリオを組んで、アルファ値によるアクティブ・ポートフォリオの有効なことを示す。